

【伊藤総領事メッセージ 2018年10月】

9月には、外務大臣表彰を記念するレセプションを2件開催しました。外務大臣表彰は、国際関係の様々な分野で活躍し、日本と諸外国との友好親善関係の増進において、特に顕著な功績のあった個人及び団体の功績を称えるとともに、その活動に対する一層の理解と支持を国民各層にお願いすることを目的としています。今年は日本国内外から205名の個人、49団体(うち海外在住受賞者は171個人、43団体)に対する表彰が東京で7月17日に発表されました。

当館管轄内のオンタリオ州で表彰を受けたのは、元全加日系人協会会長の野間賢一郎氏と、書道カナダです。河野外務大臣からの表彰状の当地への到着と、関係者の方々の日程を調整し、当地での授賞式及び祝賀レセプションはいずれも9月に総領事公邸で開催する運びとなりました。

野間さんは、全加日系人協会(NAJC)の会長を永年務められ、カナダにおける日系人の地位向上

に取り組むと共に、高校の歴史の教師として、また教壇を去られた後も、オンタリオ州の学校が日本を訪問し、日本について学ぶためにはどうしたら良いかにつき、様々な取り組みをされてきました。最近では、チャタム・ケント市に日系カナダ人の労働キャンプが戦時中に存在し、戦後も多くの日系カナダ人が同市に移動したことを伝える記念パネルの設置と、日加の友好の印として桜の植樹を行うべく、チャタム・ケント市側と約2年をかけて交渉と調整が行われた結果、9月7日に記念パネルの設置と植樹の記念式典の開催に至りました。



この式典には私も出席しましたが、かつてチャタム・ケント市に住んでいたという高齢の日系カナダ人の方々やその家族がハミルトン市やトロント市からも駆けつけられました。また地元選出のリック・ニコルズ州議会副議長、モンテ・マクノートン・オンタリオ州インフラストラクチャー担当大臣、ランディ・ホープ・チャタム・ケント市長、さらには地元の公園や学校の関係者も臨席するなど、合計90名近い方が集まりました。ちなみに、かつて日本の西武鉄道のアイスホッケー・チームで活躍し、冬季オリンピックにも出場した若林仁・修兄弟も、ブリティッシュ・コロンビア州から強制移動させられた日系人家族の一員であり、ニコルズ副議長によれば、アイスホッケーのスターであったメル(仁さん)とハービー



(修さん)は、チャタム・ケントでのヒーローであったとのこと。野間さんは今後も、日本とオンタリオの学生交流をどのように拡大するか等につき、取り組んでいかれるとのこと。

書道カナダは、毎年1回、カナダ全土からの参加者を得て書道の全国大会及び展示会を実施してきており、昨年11月には10周年を迎えました。日本人や日系人のみならず、書道カナダを知るまでは書道の知識や経験が全くなかったカナダ人も、書道を学んで出展して行われるこの展示会は、日本での書道展とは一味違うユニークな展示会となっています。

書道カナダの代表である前田典子先生は、ウォータールー市に居を構えながら、トロント市

の日系文化会館をはじめ様々な場所で書道の指導を精力的にされています。また、書道カナダの応募作品は、その入賞のランクに応じて軸装され展示されますが、これら作品の審査委員会の日本での実施及び軸装は全て前田先生が手配されています。私も昨年の書道カナダ展に伺い、本当に素晴らしい作品の多さに感銘を受けました。また、若い子供達も数多く参加していることも嬉しく思われました。日本の伝統文化である書道という技法を使い、各個人の個性や豊かな感性が表現されているこの書道展は、日



本とカナダの交流によって生まれたユニークな文化だと言えます。

前田先生の活躍の様子は、カナダ国営放送(CBC)でも番組を作成して放送される予定とのこと。また、前田先生は福島県の造り酒屋が生産する日本酒のラベル用に酒の名前を筆で書く仕事も続けていらっしゃいます。復興支援の気持ちも込めて、公邸でのレセプションの席では前田先生が書いたラベルの使われている日本酒を2種類、サーブさせていただきました。

今日の日本とカナダの間の友好増進、相互理解の促進のために尽力して下さる方々はたくさんいらっしゃいます。総領事館関係者が気づかない分野で永年取り組みを続けていらっしゃる方もいらっしゃると思います。それらの方々への感謝を示すと共に、その活動が目され、ますます支援され発展していくために、日本・カナダの国籍を問わず、州内で活躍されている様々な団体や個人について情報を集めて行きたいと思っております。皆様からもご協力を頂ければ誠に幸いです。

